

令和8年度全国学力学習状況調査の結果 京都市立向島東中学校

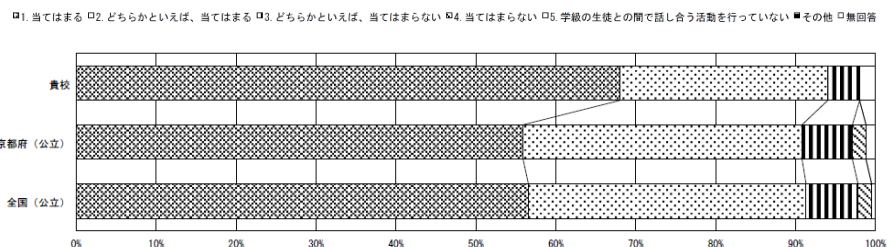
4月22・23日、5月1日に実施された「全国学力学習状況調査」について、本校の調査結果がまとまりました。中学3年生を対象に、国語・数学・英語の3教科と併せて、家庭での過ごし方や学習時間等についての生徒質問紙も実施されております。生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

各教科の分析と改善に向けて

国 語	総合的な正答率は、全国平均正答率とほぼ同じとなりました。そして、「発言について説明したものとして適切なものを選択する」「気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く」という内容の問題では、平均を大きく上回りました。グループ等で自分の考えを他者に伝え続けてきた成果だと考えます。 一方で、全体的に記述式の問題に対する正答率が低く、考えを文章として表現することに課題が見られます。書くことを習慣化し、考えを表現する力を高めましょう。生徒質問紙の結果からは、「国語の授業で学習したことが将来に役立つ」と考える生徒が非常に多いことがわかりました。変化の著しい社会をたくましく生き抜く力をこれからも付けていきましょう。
数 学	「数と式」の領域で全国平均を上回っているところがあり、基礎的な計算や数量関係を捉える力が身に付いてきていることがわかりました。また、具体的な場面から必要な情報を読み取り、基本的な問題を解決する力についても、比較的よく身に付いている部分が見られました。 一方で、「図形」「関数」「データの活用」など、複数の情報を整理したり、数学的な根拠をもとに説明したりする問題には課題が見られました。特に、自分の考え方や解き方を文章や式を使って説明する力については、今後さらに伸ばしていく必要があります。今後は、単に答えを求めるだけでなく、「なぜそうなるのか」「どのように考えたのか」を説明する活動を大切に、数学的に考え、表現する力を育てていきたいと考えています。
英 語	「日常的な話題について英語を聞き、必要な情報や話の概要を捉える問題」で、全国・全市平均を上回るものが見られました。日々の授業で、英語を聞いて内容を捉える活動に取り組んできた成果が表れていると考えられます。 一方で、自分の考えやその理由を英語で表現する問題や、相手とのやり取りの中で、その場で考えて英語で伝える問題には課題が見られました。また、まとまりのある内容を英語で書いて伝える力についても、さらに伸ばしていく必要があります。今後は、学習した語句や文法を実際のコミュニケーションの中で活用できるよう、自分の考えとその理由を伝えたり、相手の考えを聞いて質問したりする活動を充実させていきます。また、「話すこと」と「書くこと」を関連付けた活動を取り入れ、自分の考えを英語で表現する力を育てていきます。

成果①(生徒質問紙調査から)

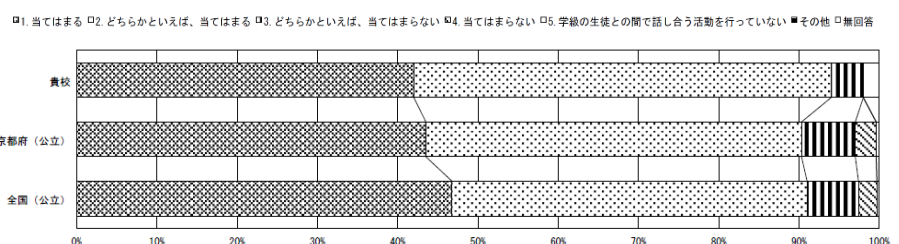
質問 友達関係に満足していますか。



“当てはまる・どちらかといえば、当てはまる”の割合 本校:94.0% (京都府平均:90.8%、全国平均 91.2%)

成果②(生徒質問紙調査から)

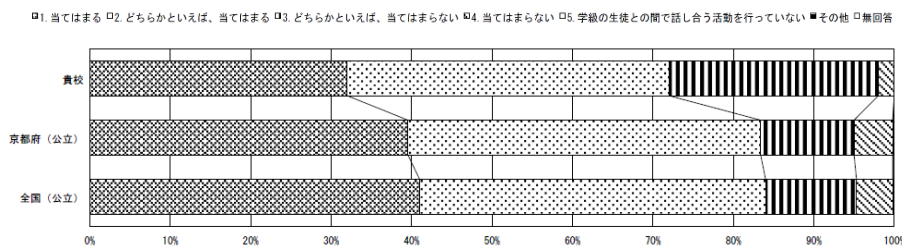
質問 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



“当てはまる・どちらかといえば、当てはまる”の割合 本校:94.0% (京都府平均:90.3%、全国平均 90.9%)

課題(生徒質問紙調査から)

質問 自分には、よいところがあると思いますか。



“どちらかといえば、当てはまらない、当てはまらない”の割合 本校:28.0% (京都府平均 16.4%、全国平均 15.8%)

全体を通した本校の成果と課題

今回の全国学力学習状況調査では、全国平均・京都府平均を上回る結果には至りませんでした。しかし、各教科、力が付いている部分、伸びている部分もありました。7月末、および9月に配付した個人結果票には、得意な部分と見直しが必要な部分が明記されています。結果を単なる数字として見るのでは今年度から新しくなる公立の入試も控えているので、結果を一つの糧として学習に励んでくれることに期待しています。それに伴い、今後は授業外での学習も肝心となります。各ご家庭で学習環境を整えてくださることだとは思いますが、夏季休業期間明けから自習教室「学びの聖地」を放課後に開室しております。「学校の方が集中できる」「教えてくれる人がいると安心」という声も聴きます。今後もぜひ活用していきましょう。

また、生徒質問紙調査から、明らかになったのは、生徒たちが「友達関係に満足しており、教職員からも認められている」と感じていることです。生徒たちが学校で生活する上で、友達と関係を築くことは非常に重要なことだと考えます。また、共に過ごす教員との関係も、生徒たちの学校生活にとって欠かせない部分であると考えます。これらの数値が高いことから、生徒たちは3年間の中学校生活において、他者との関わりを大切にしてきたことがわかります。反面、「自分には良いところがある」という自己肯定感が低い生徒が平均よりも多いことがこの調査で判明しました。普段の授業で活躍する姿、学校祭に向けた縦割り活動を進める姿を見ている私たち教職員にとって、意外な結果となりましたが、生徒たちは自分の強みを認識できていないことが想定されます。今後、生徒たちの頑張りを認める声掛けは続けながら、その頑張りににはどのような効果があるのか、周りの人にどのような影響を与えるのかを実感させることで、自己肯定感を高めていきたいと思います。

今年度、本校では学校教育目標「未来の世界をたくましく生き抜く学び手の育成」の達成に向け、昨年度に続き「対話」が生まれる授業を目指すことに加え、生徒の“もっと知りたい・もっと取り組みたい”“なぜ?どうして?”が高まる「探究」の場になる授業を目指しています。生成 AI 等、技術が進歩し続ける社会に適応し、たくましく生き抜くためには、ただ単に知識をつけるための授業(講義型)ではいけないと考えています。講義型の授業から脱却するために取り組んでいることのの一つが、授業時間を10分延ばした「60分授業」の実施です。「生徒の思考を深め、表現する時間を確保する」「テスト・振り返りを通して基礎基本の知識を確認する時間を設ける」など、授業者が目の前の生徒たちに必要なことは何か見取った上で実践しています。まだまだ至らない部分もあるかと思いますが、本校の取組にご理解の程どうぞよろしくお願いいたします。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。学力は学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。

今回の結果から、これまでの調査と比べて、学力は着実に伸びてきており、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。